

令和2年度 宇城市男女共同参画に関する市民意識調査

【調査結果概要版】



【調査の概要】

本調査は、宇城市の男女共同参画に関する市民の意識や実態の変化を分析し、現状とこれからの取り組む課題を把握することにより、男女共同参画計画を見直すための基礎資料として活用し、今後の男女共同参画を効果的に推進することを目的とし実施するものです。

調査項目

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| (1) 回答者について | (8) 配偶者などからの暴力について |
| (2) 男女平等について | (9) 男女間のセクハラについて |
| (3) 結婚観について | (10) 人権の尊重について |
| (4) 家庭生活全般について | (11) メディアにおける性・暴力表現に関する意識について |
| (5) 子育て・教育について | (12) 男女共同参画に関するご意見やご要望 |
| (6) 女性の社会参画について | (13) 熊本地震や復興関連について |
| (7) 仕事、家庭、地域活動等の両立について | |

調査設計

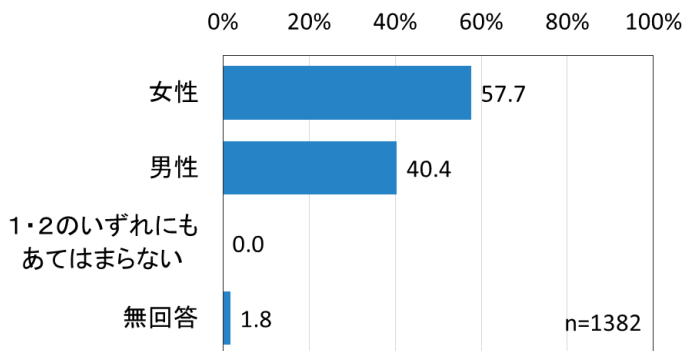
調査対象地域	: 宇城市内全域
調査対象	: 市内に在住する 20 歳以上の男女 3,000 人
調査対象者の抽出方法	: 住民基本台帳から無作為抽出
有効回収率	: 46.1% (回収数 1,382 票)
調査方法	: 郵送による配布、回収
調査期間	: 令和 2 年 7 月 6 日 (月) から令和 2 年 7 月 31 日 (金)

【利用上の注意】

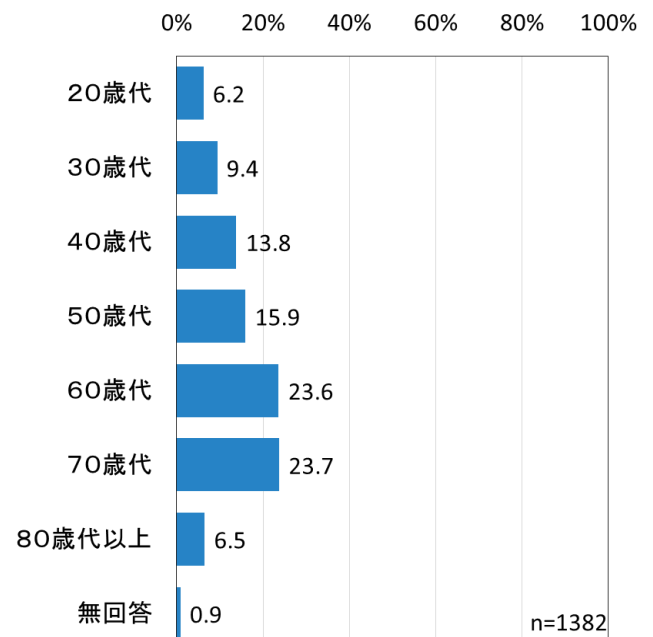
本資料は「令和 2 年度 男女共同参画に関する市民意識調査 報告書」に基づき作成したものです。スペースの都合上、設問や選択肢の文言を省略して表示している場合があるため、詳細については、当該報告書をご参照頂くようお願いいたします。

(1)回答者について

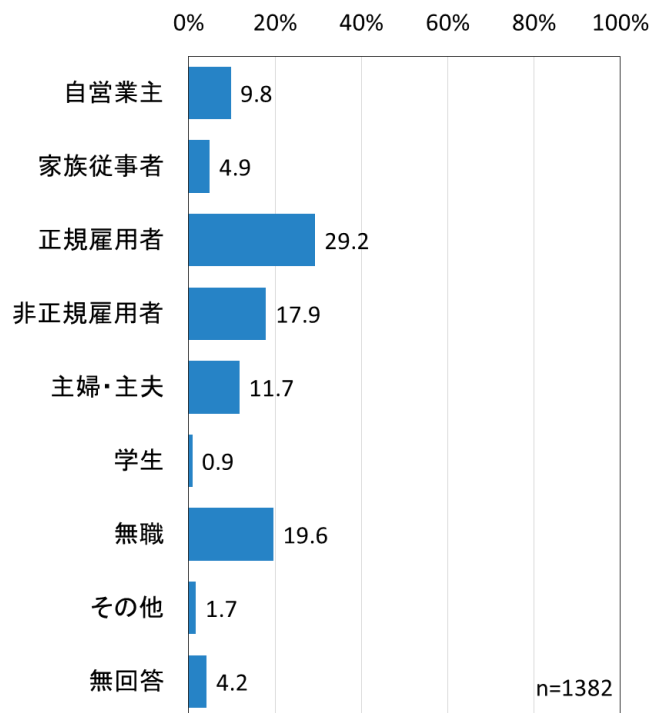
○性別の構成



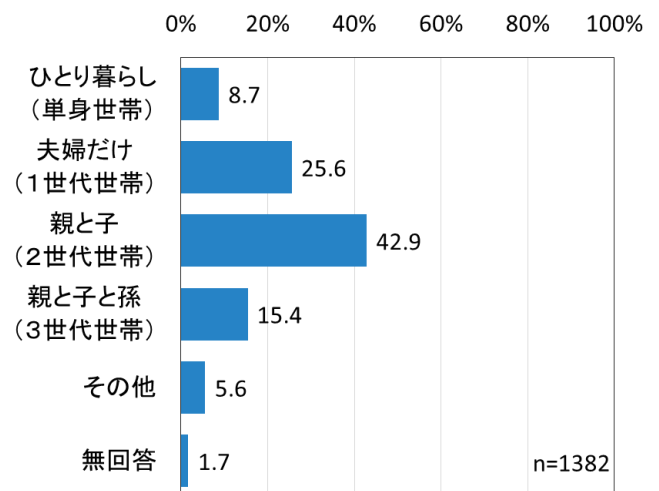
○年齢の構成



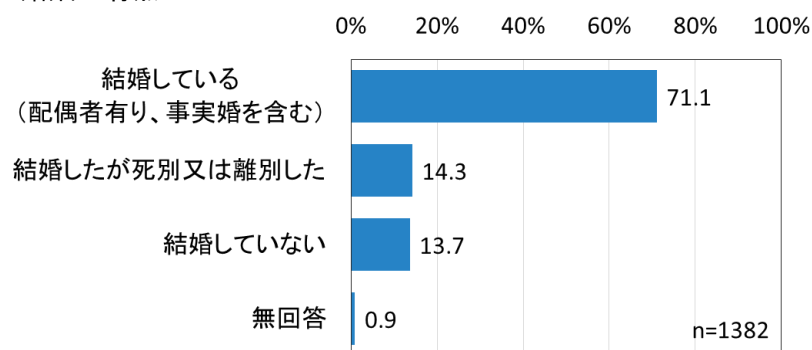
○職業の構成



○世帯構成



○婚姻の有無

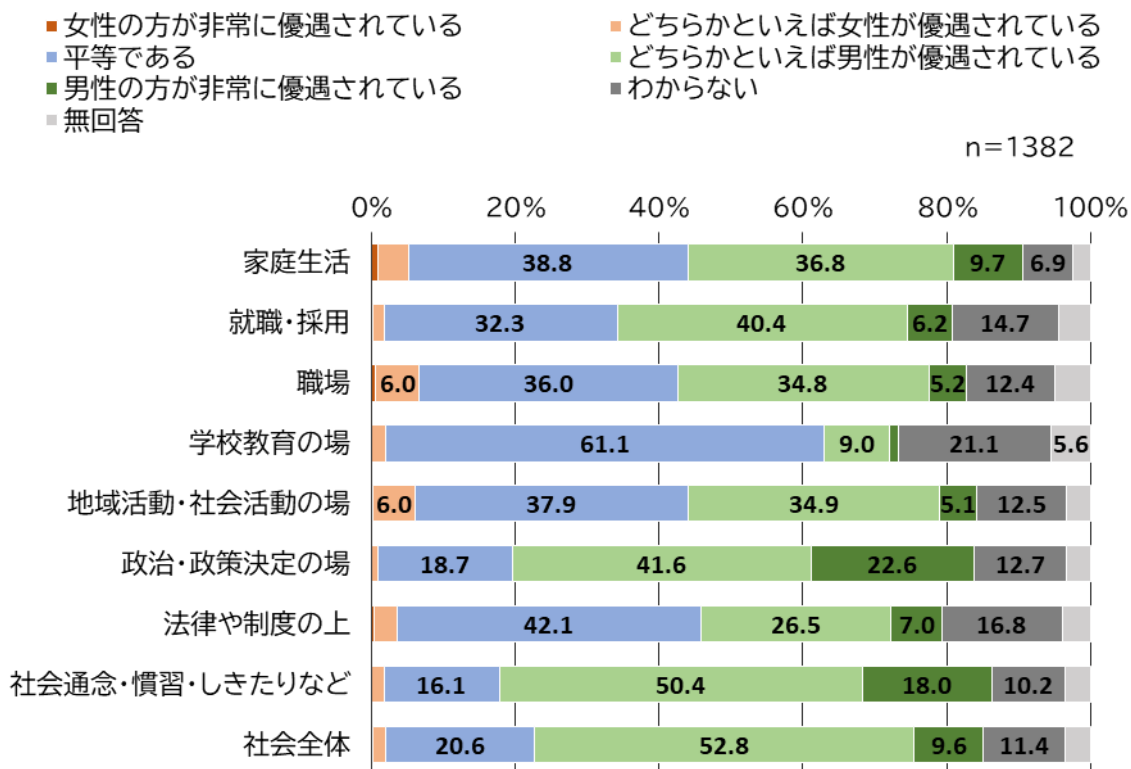


I. 男女共同参画に関する意識について



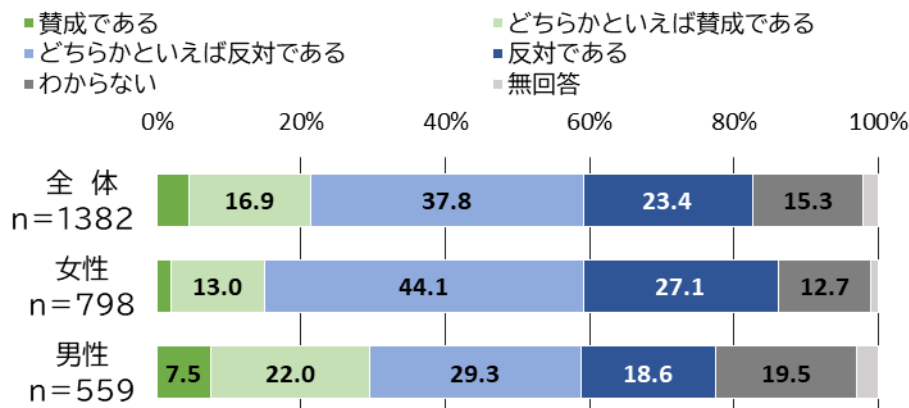
1. 男女平等について

すべての項目で『男性優遇感』（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が高い割合となっており、特に「社会通念・慣習・しきたり」、「政治・施策決定の場」、「社会全体」で割合が高くなっている。



2. 男女の固定的役割分担意識について

全体での結果をみると、「どちらかといえば反対である」の 37.8%が最も多く、これに「反対である」の 23.4%、「どちらかといえば賛成である」の 16.9%が続いている。「反対である」と「どちらかといえば反対である」を合わせた『反対』は 61.2%と 6 割を超えており、「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」を合わせた『賛成』は 21.3%となっている。



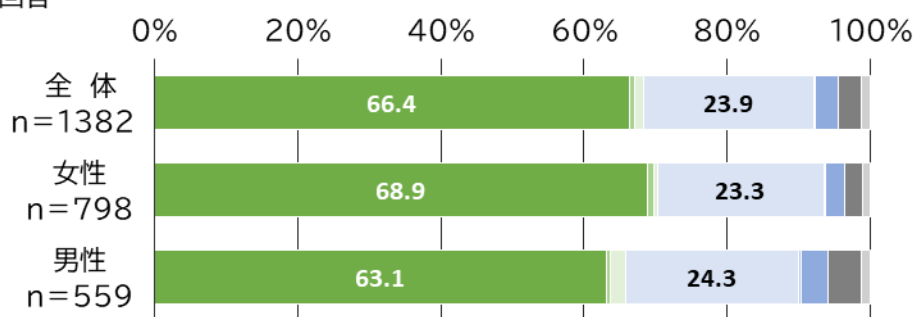


Ⅱ. 社会参画とワーク・ライフ・バランスについて

1. 女性の働き方について

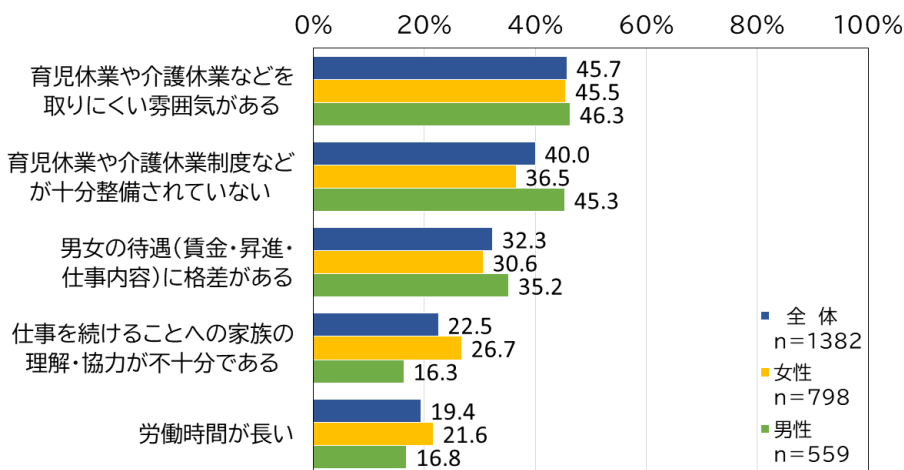
全体では、「経済的自立のため、ずっと職業をもっていた方がよい」(66.4%)との回答が最も多く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」(23.9%)がこれに続いている。性別にみても同様の傾向がみられる。

- 経済的自立のために、職業をもっている方がよい
- 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
- 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
- 子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい
- 女性は職業をもたない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



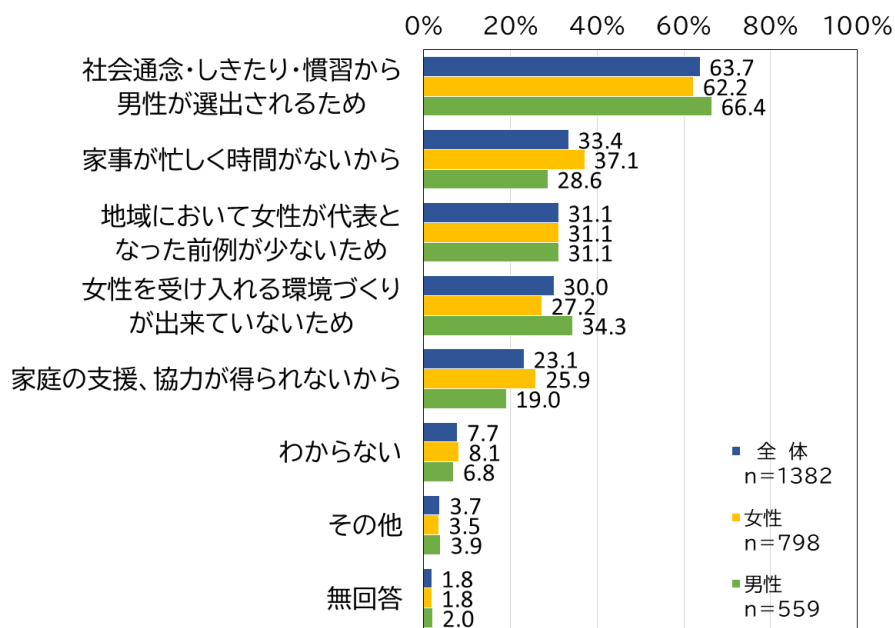
2. 女性が仕事をもち続けるうえでの問題

全体では「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」(45.7%)が最も多く、これに「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」(40.0%)が続いており、育児・介護支援制度に関する問題が上位を占めている。以下、「男女の待遇(賃金・昇進・仕事内容)に格差がある」(32.3%)、「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」(22.5%)、「労働時間が長い」(19.4%)など、就労条件や家族の理解に関する回答が続いている。



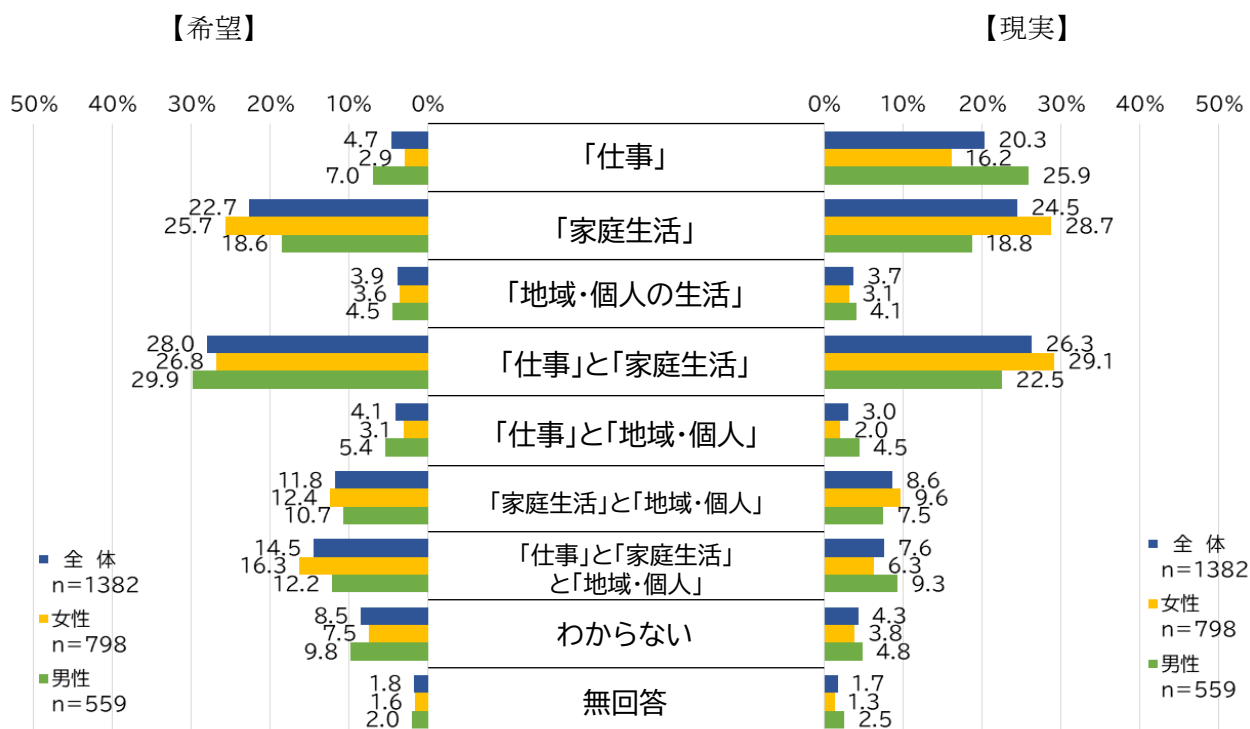
3. 企画立案・政策決定の場に女性が少ない原因

企画立案・政策決定の場に女性が少ない原因としては、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」(63.7%)との回答が最も多く、次いで「家事が忙しく時間がないから」(33.4%)、「地域において女性が代表となった前例が少ないため」(31.1%)が続いている。



4. 仕事、家庭生活、地域・個人生活の両立に関する希望と現実

希望としては、「仕事と家庭生活をともに優先したい」「家庭生活を優先したい」との回答が多い。現実については、希望と同様に「仕事と家庭生活をともに優先している」「家庭生活を優先している」との回答が多いが、それに「仕事を優先している」が続いている。

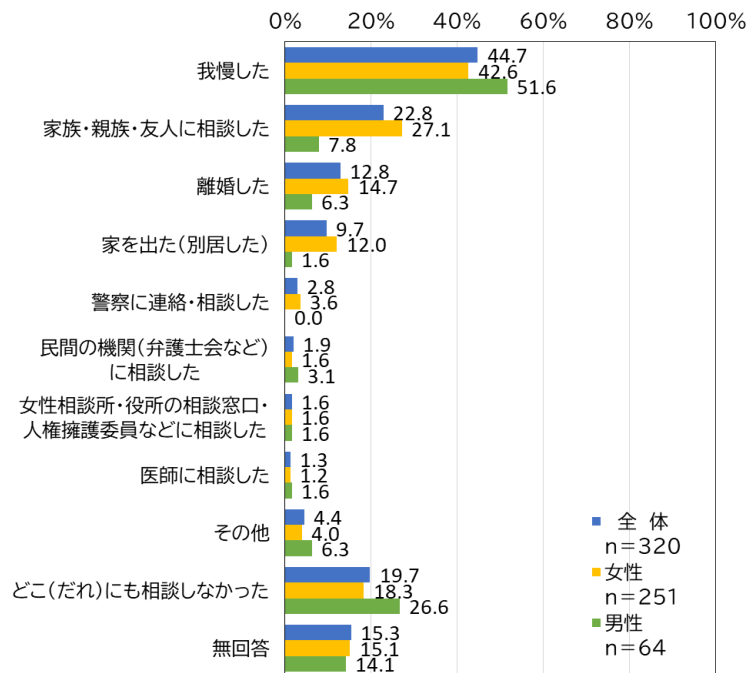




Ⅲ. ドメスティックバイオレンスやセクハラについて

1. 配偶者などからの暴力・被害を受けた際の対応

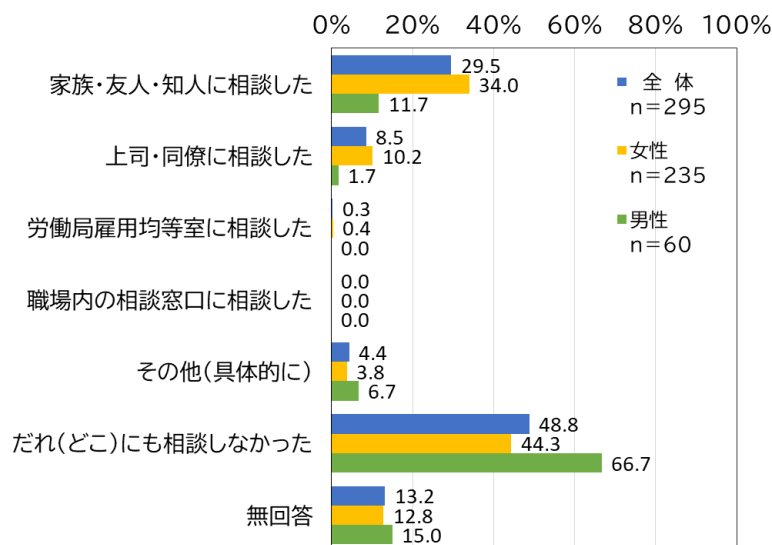
DVに関する被害経験について、「手でたたく・突き飛ばす、足でける」、「大声でどなって威嚇する」では被害経験で1割程度の回答となっている。また、すべての項目で、女性の被害経験の割合が高くなっている。また、1つでも被害経験のあった人（320人）を対象に被害にあった際の対応について質問した。結果は、「我慢した」（44.7%）が最も多く、次いで「家族・親族・友人に相談した」（22.8%）、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（19.7%）が続いている。



2. 男女間のセクハラ・被害を受けた際の対応

セクハラ被害経験について、全体では「まったくない」との回答が最も多くなっているが、「男のくせに…女のくせに…」など差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」では、「見たり聞いたりしたことがある」との回答が20%台となっている。

また、被害を受けた際の対応としては、1つでも被害経験のあった人（295人）に相談の状況を質問した。結果をみると、「だれ（どこ）にも相談しなかった」（48.8%）との回答が最も多く、次いで「家族、友人、知人に相談した」（29.5%）、「上司、同僚に相談した」（8.5%）が続いている。

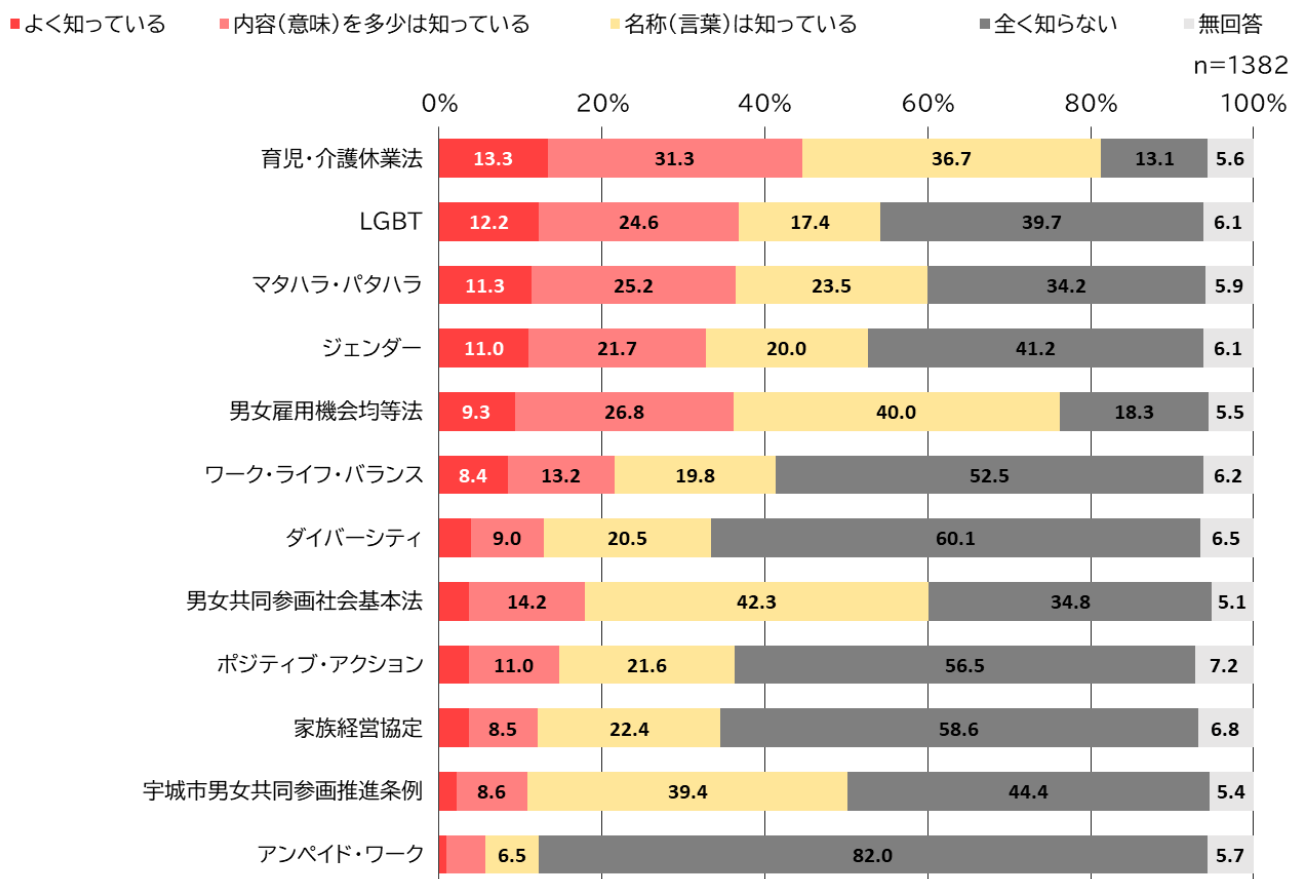




IV. 男女共同参画の推進について

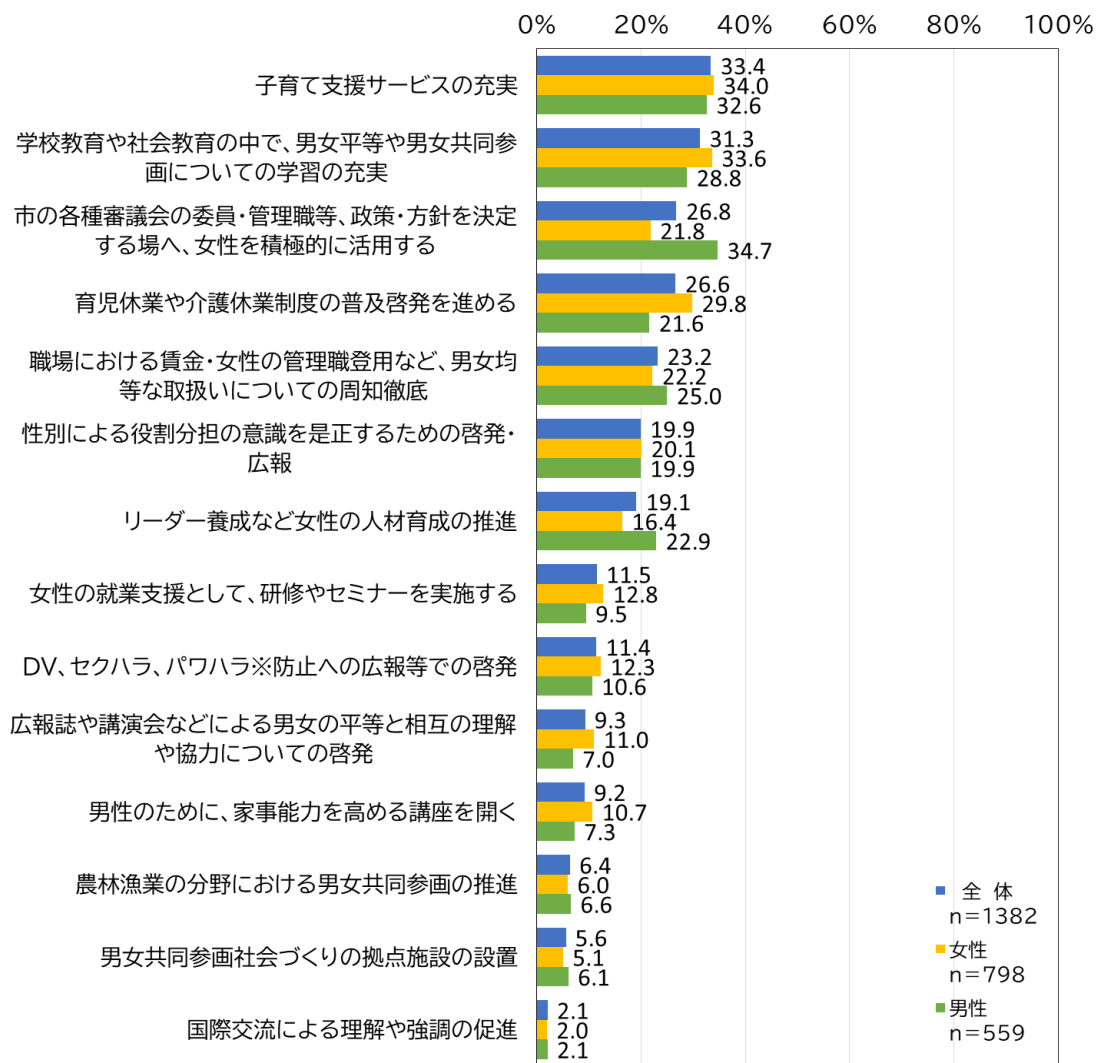
1. 男女共同参画に関する用語の認知度

男女共同参画に関する用語について 12 項目の認知度をたずねた。『認知度』(「よく知っている」+「内容(意味)を多少は知っている」+「名称(言葉)は知っている」)をみると、「育児・介護休業法」が 81.3%で最も高く、これに次ぐ「男女雇用機会均等法」(76.1%)、「マタハラ・パタハラ」(60.0%)、「LGBT」(54.2%)「ジェンダー」(52.7%)「宇城市男女共同参画推進条例」(50.2%)で、いずれも過半数の回答を得ている。一方、認知度が低いもの(「全く知らない」)では、「アンペイド・ワーク」(82.0%)、「ダイバーシティ」(60.1%)、「家族経営協定」(58.6%)、「ワーク・ライフ・バランス」(52.5%)となっている。



2. 宇城市の施策に望むもの

男女共同参画社会を実現していくために、宇城市の施策に望むものとしては「子育て支援サービスの充実」(33.4%)が最も多い。次いで「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」(29.5%)、「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」(26.8%)、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」(26.6%)、「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な扱いについての周知徹底」(23.2%)、「性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報」(19.9%)が続いている。



V. 熊本地震や復興関連について

災害時や被災前の準備として必要なことをたずねた。『必要なこと』（「とても必要だと思う」＋「どちらかといえば必要だと思う」）をみると、「男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う」が87.0%で最も高く、これに次ぐ「避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる」（86.3%）、「防災計画の策定の場に男女がともに参画する」（85.3%）「男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う」（85.2%）では、いずれも85%以上の回答を得ている。一方、『必要ないこと』（「まったく必要ないと思う」＋「どちらかといえば必要ないと思う」）では、「自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす」で9.7%とやや回答が多くなっている。

